

UPP

犬養憲子

UPP

出演

男1 幸助(菜月の連れ合い)

女1 菜月(幸助の連れ合い)

女2 幸助の母

場所

幸助と菜月の家の中

明かりがつくと、部屋の中。男と女が向かい合って座っている。

二人とも家の中なのにマスク。どうやらにらめっこのおまうなことをしているようだ。

女の方は真剣そのもの、マスクが動いている様子がわかる。

男の方は、少し呆れているのか、そんな女をただ見ている感じ。

男1 なあ。

女1、なおいつそう真剣な様子で顔を変えている。

男1(深いため息) …なあ。…なああって。

女、答えずいつそう真剣。その顔はちょっと真に迫っていて怖い感じすらある。

男1 なあ。ちよっと、一回、な、一回ストップ。ストップしよつち。

女1 …。(無表情になり、ため息をつく)

男1 お？ えっと、あ、今これ、ストップしてる状態ってこと正しい？ 終わり？ 終わった？

女1 ねえ。

男1 うん？

女1 ねえ。

男1 あ、えっと。

女1 あのさ。

男1 はい。

女1 真剣にやってって、言ってるよね。ずっと。

男1 あ、はい。。

女1 真剣にね、って言ってるよね。

男1 うん。

女1 なんで？

男1 は？

女1 なんでそんな感じ？

男1 なんて言われても。

女1 なんか、喋りだしてるし。

男1 ごめん。

女1 ルールわかってる？

男1 う？ うん。

女1 ホントに？

男1 うん。多分？

女1 じゃあ、わかって、喋ってるってことだよな。それは、ルール違反ってことだよ。それって、負けになるんだよ。当然、それもわかってるよね？ だって、ルールわかってやってるってことなんだから。

男1 おお。おお。わかってるよ。だから、いいよ、もう、負けで。(マスクを取る)

女1 は？

男1 だから。俺の負けでいいよ。それでいい。それでいいんだろ？ はい、お前の勝ち。いえーいー おめでとぅー！ スッゲーな。強いな。さすが！。さすが！。さすが！。な。だから、もう、さ、ほら、マスクとってさ、んで、そうだな、うん。今日は、日曜日だし、ちよつと、出かけてみる？ ころ、気分変えてさ、いや、ほら、あの、あれ、そう、お祝い？ お前、勝ったってこと。こちそうするよ。な。なんか、ころ、何ていうか、空気がさ、なんか、ピリピリしてるしさ。ころ、気分を変えて、な。

女1 …

男1 な。

女1 ねえ。

男1 お？ 何？ どの？ どのに行きたい？

女1 ねえ。

男1 何が食べたい？ 肉？ 魚？ 洋食？ 和食？ どうする？ どのいく？

女1 ねえ。

男1 何、何？ どうした？ どうしたんだよ。よし、まずは、いく準備しよう、とりあえず。

男、部屋を出て行くこととする。

女1 (泣き始める)

男1 (女が動かないので振り返り、泣いているのに気付いて)え？ なに、なに、なに、なに？ え？ 俺？ 俺、なんかした？ え？ 何？ 俺のせい？

女2 マスクを外しながら部屋に入ってくる。

女2 呼ばれて飛び出てジャジャジャーン、はい、来たよ、きたよ。いやあ、あれね、一応さ、ピンポン？ あれ押してみたんだけどさ、ホントに壊れてるんだねえ。早く直さないと不便じゃない？ 出てこないね。帰ってしまふんじゃない？ お客さん、…(しゃべり続けている)

男1 え？ なに？ なんて？

女2 は？ なんて？ 呼ばれたからさ、なつきちゃんに。(女1 が泣いているのに気付いて) は？ なんて？ なにがあったの？ なつきちゃん？

男1 は？ なつきが、母ちゃんを？ え？ なんて？

女2 知らないさ。1時ぐらいに来られますから。ピンポン壊れてるから、そのまま入ってきてください。いね、って。ええ、幸助。ピンポンなんて、すぐ直せるでしょ。なんで直さないかねえ。あんたは大体、そういうところがあさ。じゃなくて。なんでね？

男1 なつき？ 母ちゃん、呼んだんか？

女1 (泣きながらマスクを外し)お母さん、ありがとっございます。来てくださって。

男1 (同時に)いや、そういうことじゃなくて。

女2 (同時に)なつきちゃん？ 大丈夫ね？ なんて？ 幸助にやられた？

男1 なんてよや。俺、何もしてない。

女1 ある意味、幸助さんにやられました。

女2 幸助！

男1 なんてよや、俺、なんもしてん。

女2 やったって言うてるぞ。

女1 いいんです。仕方がないことなんだと思います。

女2 ん？

男1 なに？ 俺がなにした？

女1 なにも。

女2 なにも？

男1 うり。

女1 その、なにもしないこと、真剣に取り組んでくれないことが。

男1 は？

女2 あはあ。あるあるだねえ。無気力男、幸助。そういうところあるよね、この男は。

男1 はあ？ なんか？ 無気力男って。ええ、一応、息子だよ、俺。

女2 言葉そのままの意味さ。あい、何か問題がありますか？ 息子が無気力なことに関しては、親としてはどうしようもない。それに関しては、母ちゃんの責任ではございません。多分。

男1 ちゃんと仕事もして、ちゃんと家庭も持って、ちゃんと親孝行もしてるのに、無気力？ ええ、なんで無気力男呼ばわりされんといけん？ どんな男や。

女2 なんていうかさあ、そういうことじゃないんだよねえ。我が息子ながら、…、面白くないっていうかね。ピンポンひびく取ってみてもそうさね。壊れてるのわかっているのに、直そうともしない、みたいなのさ。そういうことじゃない？ 昔から、そういう男があるの。

女1 お母さん。

女2 あ、「めん。はいはい。

女1 あのですね。今日来てもらったのは、ちょっと突拍子もないと思われるかもしれないんですけど、ちょっと「実験と言いますか、やってみたい」とがありまして。今から、私と幸助さん、ちょっとお母

さんの目の前でにらめっこしてか、見合っこして、的なの、こう、マスクをつけたまま、感情を伝え合うと
いうことをしてみたいと思いますので、成立しているかどうか、というか、伝わっているかなあ、みた
いなのを見て欲しいんですが。

女2 ん？ なんて？

女1 ですから、今から、お母さんの目の前で、私たちが、マスクをしたまま、黙って、感情を伝え合うの
で、それが成立しているのかどうかを見て欲しいんです。

女2 う、うん。うん？（幸助を見る）

男1 うり。俺だけのせいじゃないだろう。はっさ。まだ続けるわけ？（母を見て、肩を竦めながら）

女1 まだ、とかじゃない。いい？ 今度は本気で。真剣にやっつて。

男1 今度は真剣に？ いや、そんなこと言われてもや。精一杯真剣にやっつてるつもりだけど？

女1 つもりじゃダメだわけ。真剣に、本当に本気で真剣にやっつてもらわないと困るわけ。

男1 だから、やっつてるだろう。って。

女2 ハイハイハイハイ、見るよ、見るよ。喧嘩しないで。うり、幸助。やっつて。なんか、よく、わからんけど。

男1 はあ、あー、もう、わかったよ。やります。はいはい、やればいいんだろ。（マスクをつける）

女2 はい。なつきちゃん、はい、やるって、幸助。ね、やってみよ。なんか、ごめんねえ。よくわからんけど。

女1 いえ。ありがとうございます。（マスクをつける）じゃ、やりますね。幸助。はい、見合っこしますよ、
笑うと負けよ、あつ。ツ。ツ。

しばらく無言で変顔が続く。女1、かなり激しい。男1、仕方なく付き合っている感じ。

その二人を無言で見つめている女2。

結構長い時間。

女2 あのう…

二人黙って、続けている。男1は、女2の言葉にちょっと反応する。

女2 あのう…、ごめん！ これ…、何の時間？

男1 だよなあ？

女1 黙って。ちゃんとやっつて。もう、何回同じこと言えればいいの？ ちゃんとやっつてば。

男1 あ、菜月も喋ったね。喋った。はい、あいこね。あいこ。終了。（マスクを外す）

女1 お母さん。（幸助を睨みながら、マスクを外す）

女2 はい。

女1 わかりました？

女2 なにが？

女1 私たちが、なにを伝え合ってたか。

女2 ええ？ いや、何かを伝え合ってた？ 伝え合ってたの？ うーん。というか、二人はお互い、なにを

話してた、というか、伝え合ってたか、わかってるの？

男1 ね？ わからんよねえ。

女2 うーん。

女1 困るんです。

男1 なにが？

女2 なにが？

女1 わかってもらわないと。幸助くんも、お母さんも。

女2 え？ 私も？ なに？ え？ 何の話？

女1 私がなにを伝えようとしていたか、マスクをしている状態でわかってもらえないと。お二人には。

女2 なんでよ。

女1 マスクがないとは限らないんです。

女2 は？

男1 は？

女1 マスクありき、かもしれないんです。

男1／女2 は？

女1 このコロナ禍の中。

女2／男1 は？

女1 このコロナ禍の昨今。

女2／男1 はあ。

女1 そして、これからの世の中、マスクなしで過ごせる日は来ないかもしれない。

女2 ああ、まあ、そうねえ、わからんねえ。日本は、なんか、いつまでもマスクしてそうだよ。保守的ですか。一人だけ外してたらなんか変な一だから、まあ、しばらくつけとく？ みたいなさ。

男1 でも、なんか、屋外で会話が少なければ、マスクしなくてもいい、なんて言うてるじゃん。運動や農作業など、マスクなしを積極的に、みたいなこと言うてるし。あれ、国の方針でしょ？ だったら外すんじゃない？

女2 難しいわ。あれでしょ、身体的な距離が取れていけば、みたいなやつでしょ。そんなこと、絶対ズレが出るでしょ。人それぞれでしょ。野外だから、大丈夫、って、いう人と、いや、野外で、会話が少なければ、だから、会話してるなら、ダメよ、みたいなさ。それで、マスク外してるんだから、距離とってみたいなき。ほら、絶対マスク警察、出るよ。来るよ。

男1 ああ、まあ、そうかもしれないけど。そういう人は出てきそうだけども。

女1 マスクがなくても大丈夫な日が来るかもしれない。それは誰にもわからない。でも、きっと、コロナ前のマスクなしで当たり前前に過ごさせていた日々は二度と帰ってこない。

女2 ああ、うん、そうね、それはそうかもしれないねえ。

女1 家の中はいいんです。家族ですから。外しててもいいでしょう。顔も、確認出来るでしょう。でも、おうちにお客さんがきたら？ その人が気を使って、というか、そもそもマスクを外さない人だったら？ そして、私たちが一歩家の外に出たら？ そのほもつ、マスクありの世界ですよ。ね？ つまり、マスクありきで、感情を伝えあわないといけないわけです。

女2 あのう、ちょっと、ちょっと待ってよ、なつきちゃん。ええつとね、一体、何の話をしているの？ マスクをしたまま感情が伝わるかって話？ 合ってる？ めんね、えつと、これがなつきちゃんが言いたいこととと当たっているかはわからないんだけど。

私たち、そろそろマスク生活3年目さあね、随分なれたさ。そう思わない？　なんか、昔よりは、マスクに慣れてきたなあ。マスクとったら、誰かわからんぐらいだけだよ。意味わかる？　コロナになつてから出会った人は、マスクありきで会ってるから、マスクとった顔、わからないさあね。でも、マスク生活に慣れすぎて、それがもう、平気。

男1 ああ、そういえば、そうだな。マスクして会うのが当たり前だから、なんなら、前よりはマスク越しの感情、伝わりやすくなってるし。してからに、写真撮るからマスク一瞬取りましよう。ってなった時、は？　お前誰？　てなるみたいだな。おお、そんな顔してたんだ、みたいな？

女2 そうよ。あとさ、言葉も聞き取れるようになってきてるよねえ。モゴモゴしてるなあ、聞き取りにくいなあ、って思ってたさあね、前はよ。マスクうっとおしいなあ、みたいなさ。すごいねえ、人間って。適応能力っていつの？　まあ、元はマスクなしが当たり前だったけど、その時の表情とかがこう、マスクしててもわかるようになった、っていうか、うん、まあ、前よりはホントに感情伝わりやすくなったわ。

男1 何なら、マスクありの方が、男まえに見られるっていうか。ほら、パイロットとかさ、ライダーとか、なんか、どっか隠れてると、ちょっとミステリアスっていうか、かっこいい、みたいなイメージあるさあね、あんな感じでき。こう、マスクイケメン、マスク美人的な。

女2 確かにねえ。わかるさ、それ。2割増しイケメンに見えるよね。マスクとったらがっかり、みたいな。

男1 誰にがっかりよ。

女2 何も言っていないさ。別にあんたのこと言っただけじゃないよ、たまたま、視線が…

女1 そんなことじゃないんです。

女2 あ、なんかごめん、ちょっと話がずれた？

女1 これからのことを考えていけないといけないんです、私たちは。

女2 うん？

女1 私たちには、マスクをしていなかった、マスクなしの生活をしていたという実績があります。それが当たり前だった経験があります。コロナ前の。マスクは、風邪をひいた時とか、給食係の時とか、それから、あえて顔を隠したい時とか、そんな時にしかしなかった。むしろ、マスクをしている人に対して、なんでマスクなんだろう、なんかあるのだろうか、ぐらいに思っていました。意味もなくマスクをしている人に対しては、カッコつけて、ぐらいに思っていた節もあるぐらいです。モデルさんとか、芸能人とか、銀行強盗とか。

女2 うん？　まあ、うん。

女1 それが今や、マスクは当たり前、どころか、マスクをしていない人がおかしい、ぐらいになってますし、幸助さんみたいに、マスク美人とか、マスクがあった方が、みたいな人もいますし、口元が見えなくても、言いたいことの意味は伝わりますし、その声のトーンから感情もわかります。

男1 うん。

女1 それがなかったら？

女2 / 男1 は？

女1 もし、そのマスクをしていない生活、コロナ前の当たり前前の世界がなかったら？

女2 / 男1 は？

女1 言葉は？　言葉が使えなかったら？　声が聞こえてこなければ？

女2 / 男1 は？

女1 子供が出来ました。

女2 はい？

- 男1 え？
- 女1 妊娠しました。
- 女2 え？
- 男1 は？
- 女1 赤ちゃんがいます。(お腹を撫でながら)
- 女2 わー。ホントに？
- 男1 うわー！ え？ マジで？
- 女2 おめでとうー。
- 男1 え？ うそ。え？ あ…やった！ やったー！ え？ホントに？え？いや、え？なんで？
- 女2 わー。よかったねえ。あいら、嬉しいねえ。
- 男1 わ、わ、どうしょ。わ、嬉しい。わ。えっと、えっと、なにしたらいい？ えっと、なにするんだ？ 俺、今。
- 女2 落ち着け、幸助。すぐに出来ることはないはずよ。
- 女1 だから。真剣にやってみて。
- 男1／女2 え？
- 女1 これからの世の中、赤ちゃんは、家の中はともかく、外では、マスク越しにしか親の顔もましてや、おばあちゃんの顔も見られないわけです。
- 女2 おばあちゃん…
- 女1 あ、すみません。
- 女2 あ、いや、うん、そうだもんね。おばあちゃんになるんだもん。いいんだよ、うん。
- 男1 それで？
- 女1 あ、うん、だからね、マスク越しでも、愛情が伝わらないといけないと思っわけ。
- 男1 はあ。
- 女1 だって、幸助さん、考えてみて。赤ちゃんは、マスクをした顔しか知らないわけ。
- 男1 うん。
- 女1 マスクをした顔でも、ちゃんとあなたの家族ですよ、ちゃんとあなたの親戚ですよ、味方ですよってことをわからせてあげないといけないわけ。
- 女2 うーん。
- 女1 私たちだって、今や、マスクの下の顔を想像するしかないような状態なんですよ。ましてや、初めて見る顔がマスク顔の赤ちゃんは、もしかしたら、マスクが口だと認識するかもしれない。四角い口だと。表情を作るのは、そのマスクで隠されたところ以外の顔しかないんです。だから。だから。マスクをしていてもお互いで感情が読み取れるようになれば、せめて、夫婦の間だけでも…。今、私には不安しかないわけ。私たちの子供は、マスクの下の表情を読み取れる子供になるの？ マスクをしたままで、友達と友情を育める？ だって、今の世の中、他所の人が話しかけてくるのも遠慮してしまうかも、しれない、ほら。テレビの中の人たちだって、マスク人口が増えてしまうかもしれない。わからないよ、わからない。これからの世の中がどうなるかなんて、そんなことわからないけど。でも、考えてしまっの。不安なの。私は、私は、こんな世界で、この子を上手に、ちゃんと育てていくことができるのだから、か、って。
- 男1 なつき…
- 女2 なつきちゃん…

女1 「ごめんなさい。」

女2 うううん、なんで、なんで謝るの？ して、なんで一人で抱えるの？ すぐ言ってくれたらよかったのに。そりや、幸助、頼りないかもしれないけど、でも、なんで一人で悩むの？ すぐ言いなさい。二人で考えたらずして、このばあばに言ってくれたら、一緒に考えたし、それがわかってたら、もっと真剣に、あんなたちの表情読み取ろうと思ったださ。もう、なつきちゃんたら。

男1 だからよ。なつき。なんで一人で悩むば。俺たち夫婦やし。そりや、頼りないかもしれないけど、もっと頼って欲しい。

女1 うん。ごめん。

男1 謝らんけ。謝ることじゃないし、謝らないといけないのは、こっちさ。うん、そう。俺たちには、確かに、積み重ねてきたマスクなしの実績あるかもしれないん、けど、まあ、言ってみれば、マスク生活3年生だろ。俺たちの子供は1年生。たったそれだけさ。わからんことだらけだけど、でも、やってみないとわからないこともある。そうさ。やってみないとわからないさ。なんかやってみよう、二人で。

女2 あい、私も入れてくれたら嬉しいけど。

男1 あ、ごめん。おばあもや。

女2 は？ 誰がお婆よ。

男1 は？ なんで、おばあさ。なつきにはいいって言いました。

女2 アンタには言われたくない。

男1 なんでよや。

女1 あはは。

男1 よし、したら、ちよつと真剣に訓練しないとけん。ん？ ということは、なつきはさっきから何かを伝えようとしてたつてたや？

女1 だから、そう言ってるや。

男1 そうか、そうか。よし、じゃ、もう一回やらせて。なにを言おうとしているのか、ちゃんと考えながら見る。ちゃんとやる。うん。

女1 うん。

女2 よおし。じゃ、真剣にやるよ。私も、ちゃんとやります。審判的なね。まずは、二人の感情のやりとりからさ。早速やってみよう。こう、なにを伝えているのかが、二人、そして、私にも伝わるとよりいいね。私もちゃんと見るよ、真剣に。よし、やろう。

男1 おう。

女1 はい。

3人、いそいそとマスクをつける。

女2 じゃ、いくよ、みあってみあって。見合いつくしましょ、笑つとまけよ、

男1 / 女1 / 女2 あっ、あっ、あ。

真剣ににらめっこしあう二人と、真剣に読み取ろうとする女2。

ピアノで子守唄が静かに流れてくる。

楽しそうに、感情を伝え合っているような3人。
しばらくあつて、暗転。

おわり